

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2017-18481

(P2017-18481A)

(43) 公開日 平成29年1月26日(2017.1.26)

(51) Int.Cl.
A43B 7/08 (2006.01)F1
A43B 7/08テーマコード (参考)
4F050

審査請求 有 請求項の数 1 O L (全 4 頁)

(21) 出願番号 特願2015-140663 (P2015-140663)
(22) 出願日 平成27年7月14日 (2015.7.14)(71) 出願人 714004745
中岡 勝栄
岡山県倉敷市羽島696-1番地
(72) 発明者 中岡 勝栄
岡山県倉敷市羽島696-1番地
Fターム(参考) 4F050 AA01 BA05 BA50 BA53 BC43
BC45 DA06 DA07 DA08 DA10
HA53

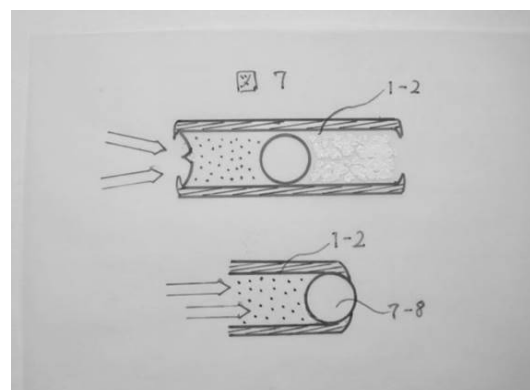
(54) 【発明の名称】 蒸れ防止軽量健康靴

(57) 【要約】

【課題】現在市販されている靴は全て通気性のない永年使用のため体質的、風土的、に足裏に蒸れが生じ足裏臭気は不快感があり、さらに、国民の多くが水虫対策に悩んでいることは周知の事実であり、それら問題課題を解決するための考察をした。

【解決手段】靴に大きく開口部を設け靴横にも、気孔口を設け、上から、横から、下から、外気が常に交換できる、機構構造設計を成し歩行使用において、足裏屈折運動により、外気空気交換がゴム特性の弾力吸収により促進され、足裏には常に外気通気があり、蒸れを解消し、足裏臭気も改善される、気孔口には、かりに、水溜まりに入ることが有っても、防水加工を施し、更に防水弁、図7の7-8が水滴を感知作動防水する、図7の7-8の○形は軽量浮動設計防水弁機能を成し防水する、さらに軽量課を図り快適な歩行運動ができる。

【選択図】図7



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

靴横に多数の気孔口を設け、常に外気通気交換ができ、歩行使用は足裏屈折動作により、ゴム独自の収縮機能により外気吸引が促進される、図 1 の 1 - 2 気孔口より外気吸引により図 3 の 3 - 2 に示す通気孔機構構造設計による、軽量化を施し、歩行中、かりに、水溜まりに入ることが有っても気孔口に、図 1 の 1 - 2 に防水加工を施し、図 1 より、図 7 の 1 - 2 により、更に防水浮動弁が水滴を感知防水する、通気気孔口構造に於ける水漏れ防止弁機能装置、図 1、図 7、に示す形態を成した全ての靴。

【発明の詳細な説明】**【技術分野】**

10

【0001】

本発明は靴内蒸れ防止気孔構造軽量化防水機能設備靴。

【背景技術】**【0002】**

今現在市販されている靴の多くは永年使用の物であり、デザイン効果はあるものの、そのことだけに視点があるようで近年益々高コストの懸念課題があり、実用的な蒸れ防止解消の靴はなく、歩行中は体質的に足裏に蒸れが生じ足裏の臭いに不快感があることを考察しその方策は、(例えば、特許文献 1 参照)その他パイプ使用物も発表され、不十分なる機能の問題課題も指摘されている、また金属バネ式通気のものも発表されている、これらの靴を使用歩行は、時間的過程で金属疲漏箇所が生じ易く又全体的に通気が行き届かない設計構造であり下記参照は蒸れ防止対策実用的要素において問題課題がある。

20

【先行技術文献】**【特許文献】****【0003】**

【特許文献 1】特開 2009 - 142307 号公開

【特許文献 2】特開 2007 - 330670 号公開

【発明の概要】**【発明が解決しようとする課題】****【0004】**

以上に述べた現在の靴は、蒸れるため、足の臭気に誰もが不快経験があることに視点を置き、不快解消やコスト高の課題解決を図ることを目的とする。

30

【課題を解決するための手段】**【0005】**

上記目的を達成するために大きく靴先上部開口部を設け、さらに靴横に気孔口を設け、常に通気性ある機構構造設計がより軽量化につながり低コストが実現する。

【発明の効果】**【0006】**

上述したように、本発明は防水加工通気性のある繊維を使い、できるだけ開口部を大きく設け図 1 や図 3 に示すように、通気気孔口設計・上・横・下・足裏全体に気孔口から外気通風を図り使用歩行は、ゴム特性の弾力収縮により、空気通風が促進され蒸れ防止や水虫対策に空前的な効果が発揮できる課題を克服し健康促進に貢献できる。

40

【図面の簡単な説明】**【0007】**

【図 1】発明の実施形態を示す靴外觀傾斜図

【図 2】靴右方歩行屈折外觀傾斜図

【図 3】靴底機構構成傾斜断面平面図

【図 4】靴底上合成繊維網織平面図

【図 5】靴上側全体平面図

【図 6】インソール平面図

【図 7】外気通気機構孔口水漏れ防止弁装置

50

【発明を実施するための形態】

【0008】

以下、本発明の実施形態を図1～図7に基づいて説明する。

【0009】

図1全体図で1-1は防水繊維加工で通気性に重点をおき、大きく開口部を設け外気通気交換のため、靴横にも気孔口1-2より常に外気吸引通路機構、図3ように3-2空気通路を設け図4の1-1部特殊繊維網状であり、使用歩行は足の屈折動作により、ゴム独自の収縮活動により通気性の役割を相互に引き出し図6のインソールにも撥水加工してあり取り外しができ、洗浄後乾燥がとても速く、さらに通気性を促進させる図3に示すとおり機構設計構成になっている。

10

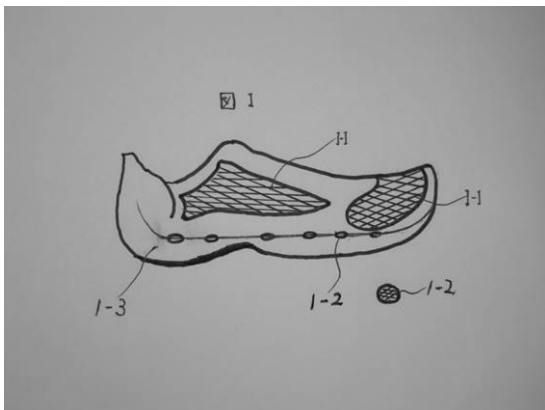
【符号の説明】

【0010】

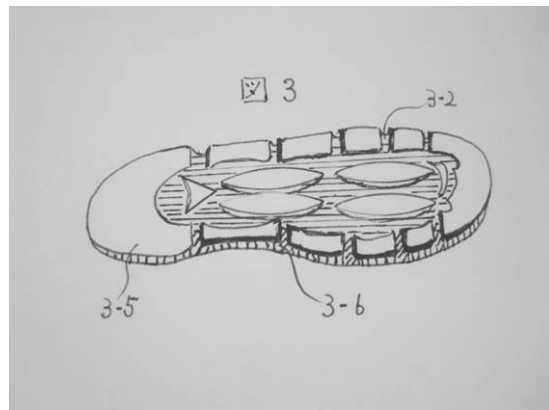
- 1-1 外気通気機構孔
- 1-2 外気吸引口、水漏れ防止弁装置
- 1-3 合成ゴム
- 3-5 軟質ゴム
- 3-6 接地面硬質ゴム
- 3-7 合成繊維網織上底層
- 4-2 合成繊維加工縁ゴム
- 6-1 合成繊維特殊織防水インソール
- 7-8 ○形浮遊弁

20

【図1】



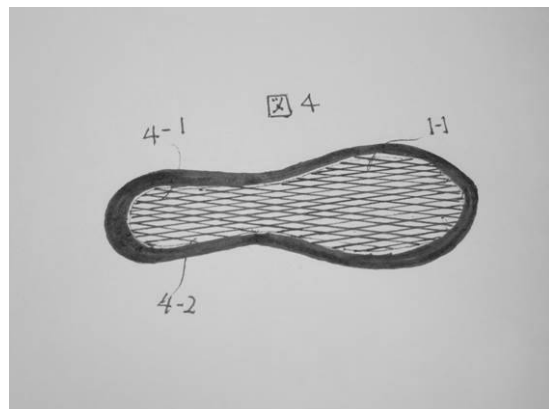
【図3】



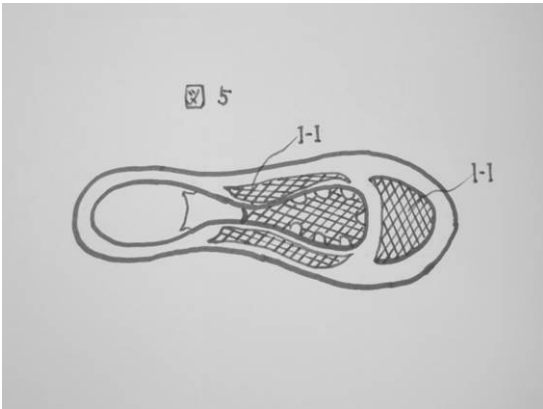
【図2】



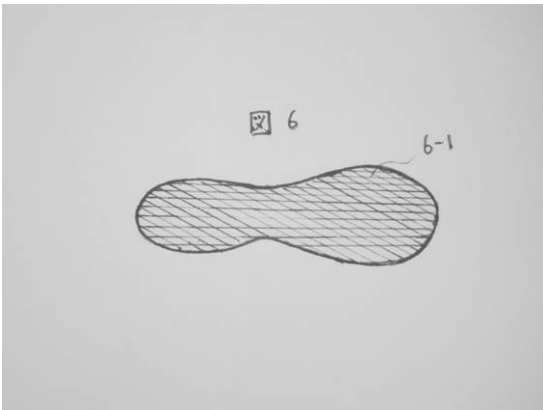
【図4】



【図 5】



【図 6】



【図 7】

